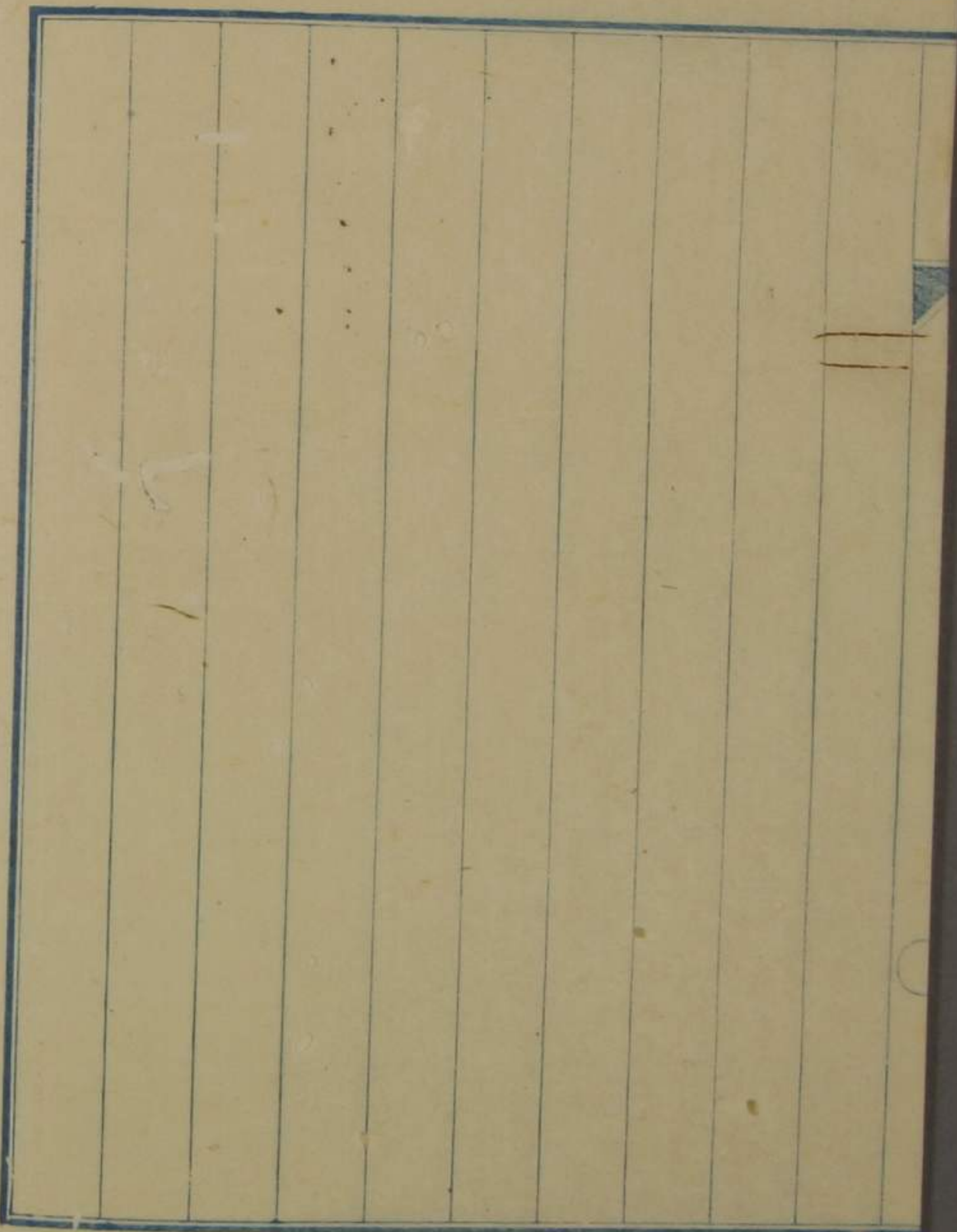


414
A1068



大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

昨明治十二年六月探偵ノ命ヲ奉シ
清國北京地方ニ派出シ尔来本年
六月マテ彼國ニ奔走シ既ニ一周
年間該事實ヲ得テ之ヲ報道セ
ント欲ス即チ二三條件ハ上申セリト
雖片其要領ヲ得ス若縮ノ至リニ
堪エス然リ而メ窮ニ其事情ヲ考
ルニ探偵其實ヲ得ント欲スル必交
際ヲ廣クシ要路ノ人ニ近クニアラカレ
ハ其國ノ事實ヲ得ルヲカタクシ而メ



清國政府上ノ秘密ナル日本幕政
ノ時ノ比ニ非ス其民間ニ流傳スル
時事多クハ訛傳虛妄ニシテ信
スルニ足ルモノ少ク且其官衙ニアル
人員尊大自重ノ風習ナレハ我國ノ
派生人容易ニ相接スルヲ得ス夫レ
交際廣カラサルノ派出人ヲ以テ政更
秘密ノ政府下訛傳多クノ民間ニ
於テ如何ヲ其國事ノ真實ヲ
探知シ易カラシヤ故ニ從來ノ派

出人負報道スル所ノモノ多クハ下
等社會ニ親ミ其言ヲトコロモノニ
出ルカ或ハ我公館在勤ノ人ニ聞ニ
アラサレハ彼ノ上海新聞紙ニ記載
スルモノニ依ル果シテ如斯ハ萬金
ヲ費シ數人ヲ派出セシムルモ確實
ノ事情ヲ得ルハ甚難キヲヒシテ
到底企望スル所ヲ得ル能ハス縱令
得ル所アルモ所謂得ル所ノモノ
未ク所ヲ償ハサラン加之ナラス

訛謬ノ説ヲ報道スルモノアリテ日清ノ間相誤ルイナキハ之ヲ保スヘカラス
豈憂慮セサルヲ得ンヤ之ニ因テ熟
ラ考ルニ交際ヲ廣クシ實事ヲ探
偵シ得ヘキノ道ヲ求メ聊カ見ル所
ルヲ以テ之ヲ劄記シ札下ニ呈セント
欲スレモ其施行ノ次序頗ル錯綜ナル
ヲ以テ紙筆ニ盡スル能ハス又口
述セント欲スレモ身千里ノ外ニアリテ
具情實ヲ達スルヲ得カタキヲ恐ル

是ニ於テ熟思スルニ斯事タル重大
ナルヲ以テ因循ニ附スヘカラス且曾テ
上申セルカ如ク琉球ノ事ハ即今
緊ク急ニカラス露清ノ事モ亦切迫
ノ事アルトテ推考スルヲ以テ意
ヲ決シテ帰朝シ親シク事情ヲ聞
申セント欲ス而メ先ツ縷述セント
スル所ノ大意ヲ左ニ略陳ス愚熟
ラ按スルニ京城近接ノ天津ニ高
館ヲ設ケ彼我ノ物産ヲ陳列シ

需用ヲ導キ之ニ附スル一ノ新聞
社ヲ置キ北京天津ノ情况ヲ各
省ニ廣告シ又清語學校ヲ開キ
彼我互ニ語ヲ学ハシムヘシ此三者
相持相助ケ各其道ヲ以テ交際ヲ
盛ニセハ自然實事ヲ探知スルヲ
得ヘキナリ言稍々越俎ニ似タリト
雖モ謹テ我國ノ形勢清國ノ事
情ヲ保テ之ヲ考フルニ我國財政
ノ困難ナルハ朝野共ニ憂フル所ニ

シテ之ヲ救フノ要的ハ輸入ノ物品ヲ
減シ金貨ノ濫出ヲ節制シ及ヒ輸
出ノ物産ヲ成興シニ金貨ノ欠乏ヲ補
助スルニ有トス己業ニ政府ノ此ニ注目
セラレ、不待論而メ清國ハ世鬼ノ
金庫ノ如シ我國人茲ニ注目セラルハ
何リヤ且彼ノ國ノ人情風土我國ト
齊ク其日用品物モ亦大同小異ニシ
テ北海道及ヒ奥羽ノ產物ヲ輸出
セハ縱令輸出多シト虽モ壅滯ノ

患ナサル可シ故ニ我國輸出物品ヲ
盛レニシ金貨欠乏ヲ救ハントスル
清國ニ因ルニ如クハナシ然リトモ
會社ヲ隆盛ナラシメント欲スル交
際ヲ厚クシ國情ヲ通シ官衙要
路ニアル人ニ近ツキ其歡心ヲ得テ暗
ニ之レカ保護ヲ得ルニアラカレハ得ヘカ
ラサルナリ而メ要路ノ人ニ交リテ
求ムルハ嚮ノ事業ヲ開設シテ商
業或ハ文墨ノ道ヲ以テスルヨリ捷

徑ナルハナシ果シテ之ヲ施行スル
アラハ帝ニ即今ノ事情ヲ得ルノ
ナラス年ヲ追テ其得ル所益確
實ニレテ益迅速ナルヲ得ヘク保
輸出物品ヲ盛ニシ國利ヲ興シ金
貨欠乏ノ難ヲ救フモ專ラフコト
ツテ為ストコト有レカ若シ夫レ然
ラズンハ其事實ヲ得難キノミナ
ラス其弊害明言シ難キモノアリ
且彼ノ國ノ一舉一動我國ヲ多ク

影響ヲ蒙ルラシ又彼ノ國情ヲ察
スルニ數年ヲ待スニテ内外ノ憂
患ヲ釀生スルノ勢ヲ表ハセリ右
卑見ノ概畧ニモテ實ニ獻芹ノ見
ヲ免レスト亟ニ聊カ以テ採擇ノ方
一ニ供セント欲ス仰キ願クハ狂愚ヲ
明恕ニ具施行ノ次序ニ於テ下問
ヲ賜リ更ニ進止ノ方向ヲ指揮セ
ラレ廣ク交際ヲ求メ偏ク事實
ヲ探偵シ俟セテ彼ノ國ノ物産ノ

價額輸出入ノ多寡ヲ調査スルニ
於テ終身茲ニ從事シ盡カスル
ヲ得ンゴク若シ微衷ヲ諒察セ
ラレ清國再行允許アラハ何ノ
幸カ之レニ如カン惘頓ノ至リニ堪ヘ
ケルナリ頓首

東 次 郎

